

環境を学び、考え、行動する人が育つまち いといがわ  
～豊かな自然と心安らぐ環境を目指して～

## 第2次糸魚川市環境基本計画 〈概要版〉

[2020年 ▶ 2029年]

(令和2年度) (令和11年度)



「第2次糸魚川市環境基本計画」は、糸魚川市環境基本条例第8条の規定に基づき、環境に関して総合的かつ計画的に環境施策を推進していくための指針を定めた計画です。平成22年（2010）年3月に策定した前計画の計画期間の終了に伴い、当市をとりまく社会情勢や経済情勢の変化、国・県の動向、市の環境施策の検証等を行い、今後10年を見据えた計画を策定しました。

また、平成26（2014）年12月に策定した「糸魚川市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）」の内容を組み込み、一元的な進捗管理を図ることとします。

### 1. 計画の対象範囲

本計画が対象とする環境の範囲は、次のとおりとします。

分野	内容
地球環境	地球温暖化／再生可能エネルギー／オゾン層の破壊・酸性雨
自然環境	ジオパーク／生物多様性／農村環境
資源循環	ごみの減量化／リサイクルの推進／ごみの適正処理
生活環境	環境公害／非常時対応／環境美化／公園・緑地
環境行動	意欲啓発／環境教育／情報提供

## 2. 糸魚川市の環境の現状と課題

### ■地球環境

#### 糸魚川市地球温暖化対策実行計画

糸魚川市地球温暖化対策実行計画（平成 27 年度策定）で定めた、「2020 年度までに温室効果ガスを 2005 年度比で 15.0%削減」との目標を令和 2 年度では達成することが見込まれます。しかし、国と県の削減目標「2030 年度までに温室効果ガスを 2013 年度比で 26.0%削減」を、本市の CO<sub>2</sub>排出量にあてはめた場合、目標達成には至らないことが見込まれるため、さらなる緩和策の実施が求められます。

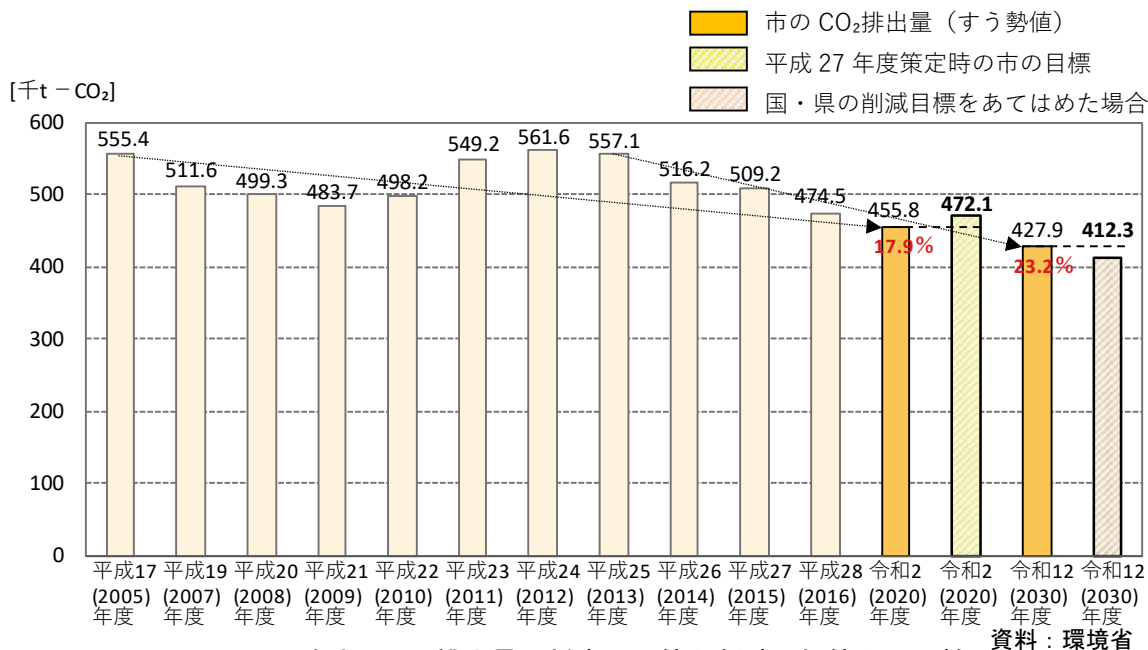


図 本市の CO<sub>2</sub>排出量の将来予測値と削減目標値との比較

#### 糸魚川市新エネルギービジョン

本市では、豊富な水資源と急峻な地形を背景に、多くの水力発電所が建設されています。また、温泉熱の利用や地熱資源の可能性についても検討を行ってきました。さらに、広大な森林を活用した、間伐材や需要のない低質材の利活用にも取り組んできました。今後も、公共施設や住宅への再生可能エネルギー設備の導入に向けた取組が重要です。

表 市内の再生可能エネルギーの導入状況

再生可能エネルギーの種類	平成 25 年度		平成 30 年度	
	発電所 (箇所)	合計出力	発電所 (箇所)	合計出力
太陽光発電※ 1	125	583.43kW	157	1,736.85kW
太陽熱利用※ 1	6	-	7	-
風力発電※ 2	2	450kW	1	255kW
中小規模水力発電	2	2.3kW	3	3.3kW
バイオマス発電	1	50,000kW	1	50,000kW
バイオマス熱利用※ 3	35	242,246kcal/h	75	516,589kcal/h
合計	171	51,035.73kW(発電のみ)	244	51,955.15kW(発電のみ)

※ 1) 「住宅用新エネルギーシステム設置事業補助金」の助成実績及び公共施設の導入実績値の合計値

※ 2) 公共施設のみの実績値

※ 3) 「ペレットストーブ設置補助金」の助成実績値

資料：新エネルギービジョン

## ■自然環境

本市は平成30(2018)年にユネスコの正式事業である「糸魚川ユネスコ世界ジオパーク」に認定されました。貴重な遺産の保護・保全や、地域資源を最大限生かした地域振興の推進が必要になります。

本市は国立公園等の豊かな自然環境を有し、そこには天然記念物等の貴重な動植物が生息しています。外来生物の駆除等により自然資源の保護・保全を行う必要があります。

中山間地等における高齢化や担い手不足が進行するなかで、農業・林業の長期的な生産基盤の整備等が課題となっています。

### 国の天然記念物、市の固有種



ヤマネ



ライチョウ



ヒメハルゼミ



ムラヤママイマイ

### 外来生物



オオクチバス



ブルーギル



オオキンケイギク



セイタカアワダチソウ

## ■資源循環

循環型社会の形成に向けて、ごみの総排出量の減少やリサイクル率の向上が進んでいます。さらなる推進に向けて、市民の意識向上を促す取組が必要です。

## ■生活環境

環境公害を未然に防ぐための大気環境等の継続したモニタリングと、結果の公表を徹底することが必要です。

公園や緑地を福祉や防災に活用する方法を市民や事業者に周知する必要があります。

環境美化意識の醸成に向けて、市民の自発的な美化活動の促進を図ることが重要です。

## ■環境行動

環境意識の醸成のため、自然観察会等を積極的に行うとともに、将来の糸魚川の環境を担う世代の育成に向けて、環境教育の充実を図ることが重要です。



写真 環境デーの活動の様子

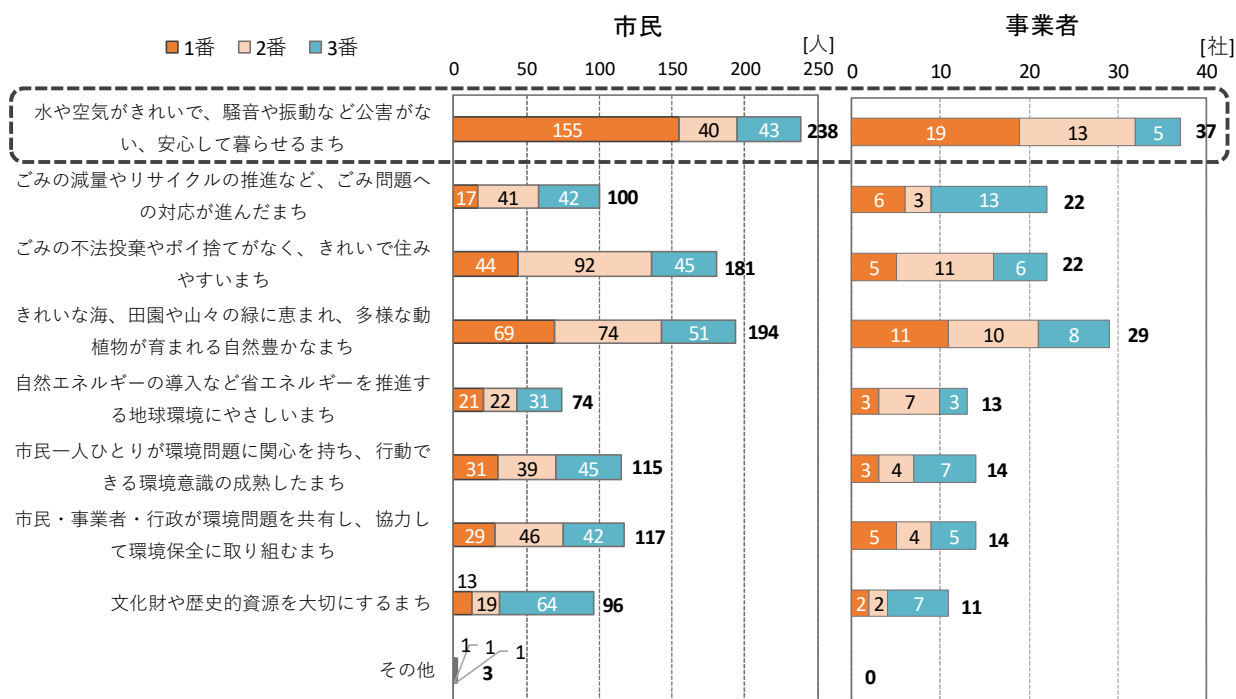


写真 モニタリングの様子

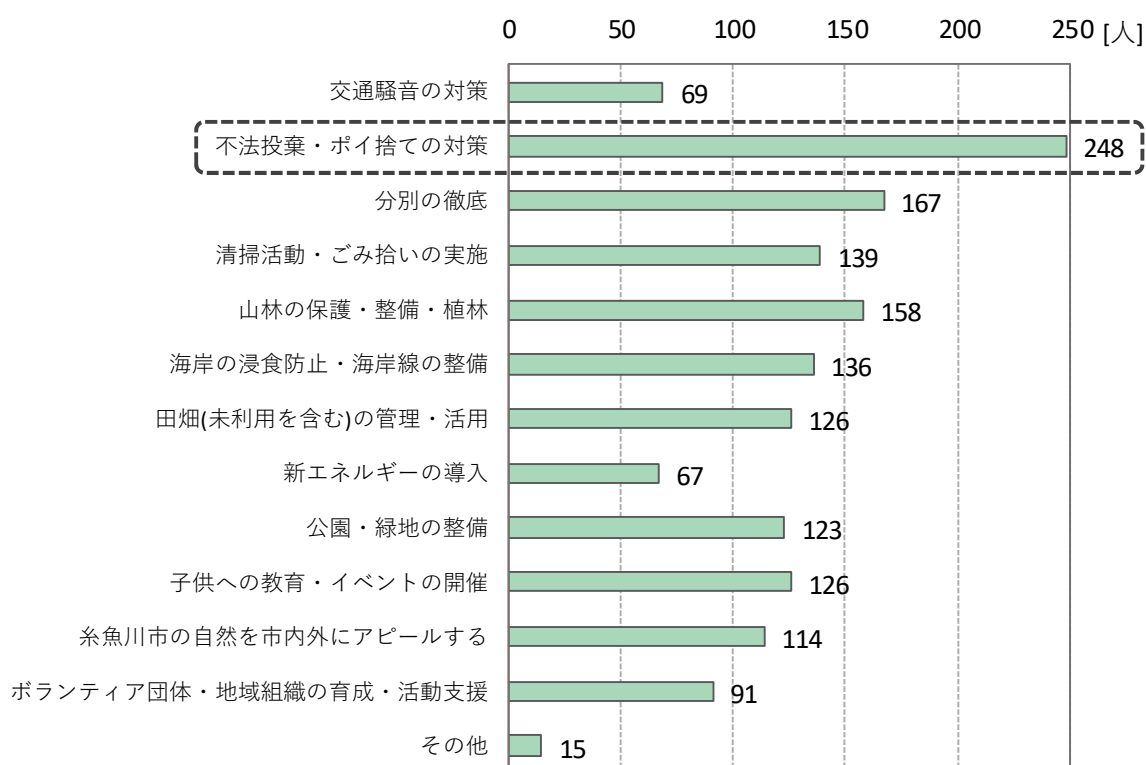
### 3. 市民の望む糸魚川市の環境像

市民意識調査として、本市在住の男女 1,000 人と事業社 83 社に実施したアンケートの結果の一部を示します。

糸魚川市の望ましい環境像の優先度に対して、市民と事業者はいずれも「水や空気がきれいで、騒音や振動など公害がない、安心して暮らせるまち」を望む回答が多くなりました。



望ましい環境像の実現に必要なものは、「不法投棄・ポイ捨ての対策」が 248 人と最も多く、次いで「分別の徹底」となりました。





## 4. 本計画策定の方針

世界的な環境問題・課題への対応や本市の現状・重点課題を踏まえ、本計画の策定方針を整理します。

### 【世界的な環境問題・課題への対応】

#### ・国の第5次環境基本計画

6つの重点戦略、それを支える環境政策を揺るぎなく着実に推進する必要性。さらに、「地域循環共生圏」「環境・生命文化社会」の構築に向けた新たな考え方が示されています。

#### ・持続可能な開発に向けた取組の推進

国際目標「持続可能な開発目標（SDGs）」に対する積極的な取組が求められています。

#### ・地球温暖化問題への対応

国際協定のもと、温室効果ガスの削減目標達成に向けた取組の推進が必要とされています。

#### ・生物多様性の危機への対応

生物多様性において直面する「4つの危機」への対応が求められています。

#### ・資源や食料需給のひっ迫への対応

天然資源の消費を抑制し、環境負荷を低減する「循環型社会」の形成が推進されています。

#### ・グリーンインフラ・Eco-DRRの導入検証

自然環境の多面的機能をインフラや防災・減災に活用する取組が注目されています。

### 【主な環境課題や配慮すべき事項】

#### (1) 地球環境

- ・地球温暖化の緩和策の推進
- ・地球温暖化の適応策の推進
- ・再生可能エネルギーの導入促進 等

#### (2) 自然環境

- ・ジオパークの適切な保全・活用
- ・生物多様性についての情報発信・現状把握・保全、グリーンインフラの活用
- ・鳥獣被害対策の推進、農村景観の持続的な保全・管理 等

#### (3) 資源循環

- ・ごみの減量化の推進
- ・ごみの適正処理の推進

#### (4) 生活環境

- ・環境公害の監視と抑制
- ・災害発生時等の非常時対応の円滑化
- ・環境美化・清掃活動の推進 等

#### (5) 環境行動

- ・環境に対する意識啓発
- ・将来の環境の担い手の育成
- ・市民や事業者への情報提供 等

### 【前計画からの見直し方針】

- ・地球環境：地球温暖化対策実行計画と新エネルギービジョンを包括した地球温暖化対策の強化
- ・自然環境：在来生物の生息・生育環境の保全についての取組の強化、良好な農村景観の維持・保全に向けた体制の強化
- ・資源循環：循環型社会に対応するための体制の強化
- ・生活環境：環境公害への適切な対応と災害発生時等の非常時の暮らしに向けた対策の強化
- ・環境行動：さらなる環境意識の醸成と環境活動への支援策の充実
- ・持続可能な開発：SDGsと環境基本計画とのつながりの明確化、SDGsの普及促進

## 4. 施策の展開

### 基本目標(1) 地球にやさしい人が育つまち =地球環境=

地球環境の悪化を防ぐため、私たちの生活から社会や経済の仕組みを見つめ直し、温室効果ガスの削減や省資源・省エネルギーの推進など、市民・事業者・行政が一体となって地球温暖化防止に向けて取り組みます。

#### 指標の設定

環境指標	現 状	目 標 (2023 年度)
CO <sub>2</sub> 排出量	557.1 千 t-CO <sub>2</sub> (2013 年度)	412.3 千 t-CO <sub>2</sub> (2030 年度)※ 1
新規就業者数 (林業)	2 人 (2015 年度)	22 人 ※2015 年度からの累計数
再生可能エネルギー 利用公共施設数	34 施設 (2018 年度)	40 施設
市民の再生可能エネルギー 設備の導入状況	217 件 (2018 年度)	230 件

※1 国・県の温室効果ガス削減目標「2030 年度までに 2013 年度比 26.0%削減」に倣い、市の CO<sub>2</sub>排出量をあてはめた値

#### ◎市の役割

取組の方針	施 策
1 地球温暖化の緩和策の推進 (地球温暖化対策実行計画)	①CO <sub>2</sub> 排出削減対策の推進 ②フロン類の適正処理や有害化学物質の低減
2 地球温暖化の適応策の推進	①適応策情報の収集と市民・事業者への周知等 ②グリーンインフラ・ECO-DRRの普及
3 再生可能エネルギーの導入促進 (新エネルギービジョン)	①再生可能エネルギーの普及・促進と高度利用のための環境整備

#### ●市民の役割

- ・ COOL CHOICE 等の省エネ行動の積極的な実施
- ・ 地球環境の変化に関心を持ち、日常生活の中で可能な対策に取り組む
- ・ 再生可能エネルギーを利用した暮らしの検討

#### ●事業者の役割

- ・ 事業所等の省エネルギー化の推進
- ・ 地球環境の変化に関心を持ち、事業活動の中で可能な対策に取り組む
- ・ 再生可能エネルギーを利用する設備の導入や活用した事業活動の検討



写真 太陽光発電施設

#### 【関連する SDGs】



## 基本目標(2) 生きものと大地の営みを感じるまち =自然環境=

本市は、多くの生きものの営みと、ダイナミックな大地の営みを身近に感じることで  
 できるジオパークのまちです。

ユネスコ世界ジオパーク認定の地としての誇りと自覚を持ち、豊かな自然環境の保全と  
 活用に取り組み、次世代を担う子供たちに引き継ぎます。

### 指標の設定

環境指標	現 状	目 標 (2023 年度)
新規就農者数	6 人 (2015 年度)	38 人 ※2015 年度からの累計数
認定農業者数	165 人 (2015 年度)	200 人

### ◎市の役割

取組の方針	施 策
4 大地とふれあうジオパークの保全・活用	①貴重な自然公園や地形・地質の保全・活用 ②自然とのふれあいの場の整備・創出
5 生物多様性保全と持続的な利用	①生きものの良好な生息・生育地の把握と保全 ②外来生物対策の推進
6 暮らしが息づく農村環境の継承	①鳥獣被害対策の推進 ②里地里山や農地の多面的機能の発揮

### ●市民の役割

- ・ジオサイトを活用した環境学習や各種イベントへの積極的参加
- ・貴重な動植物の違法捕獲・採取の監視
- ・外来生物の駆除活動等への積極的参加
- ・イノシシ等、野生鳥獣の生息・被害状況に関する情報提供の協力
- ・良好な農村景観の保全への協力



写真 SDGs 研修会の様子

### ●事業者の役割

- ・ジオサイトを活用した環境学習や各種イベントへの積極的参加
- ・事業所等への緑の積極的な導入
- ・貴重な動植物の違法捕獲・採取の監視
- ・外来生物の駆除活動等への積極的参加
- ・イノシシ等、野生鳥獣の生息・被害状況に関する情報提供の協力
- ・農地、森林の維持・保全活動への参加

### 【関連する SDGs】



## 基本目標(3) 物を大切に使い、資源が循環するまち =資源循環=

大量生産、大量消費、大量廃棄型の生活を見直し、「もったいない」という心を育みながら、循環型社会の構築を推進します。

### 指標の設定

環境指標	現 状	目 標
1人1日当たりのごみ総排出量	1,005g (2018年度)	911g (2030年度)
1人1日当たりの家庭系ごみ排出量 (資源系のぞく)	635g (2018年度)	551g (2030年度)

### ◎市の役割

取組の方針	施 策
7 ごみの減量化・3Rの推進	①ごみの発生抑制と減量化の推進 ②再使用・再資源化の推進
8 ごみの適正処理の推進	①分別収集・回収の推進

### ●市民の役割

- ・市や各種媒体が提供するごみの減量化に関心を持ち、実践可能な活動に積極的に取り組む
- ・ごみの処理やりサイクルの意義を理解し、日常生活に活かせる取組を実践
- ・ごみの分別、有害資源ごみの適切な収集に協力する

### ●事業者の役割

- ・市や各種媒体が提供するごみの減量化に関心を持ち、無駄な事業廃棄物の発生抑制に努める
- ・ごみの処理やりサイクルの意義を理解し、事業活動に活かせる取組を実践
- ・事業活動に伴って発生する廃棄物の適正処理に協力



写真 清掃センター

### 【関連する SDGs】





## 基本目標(4) 安心・安全、みんなが笑顔で暮らせるまち =生活環境=

騒音や悪臭などの公害によるストレスやトラブルのない健康で活力のある生活環境を確保します。

### 指標の設定

環境指標	現 状	目 標 (2023 年度)
大気環境・水環境に関する環境基準値達成割合	83.3% (15/18 項目) (2018 年度)	88.8% (16/18 項目)
環境美化パートナー団体数	14 団体 (2018 年度)	20 団体
環境デーの実施地区	116 地区 (2018 年度)	125 地区

### ◎市の役割

取組の方針	施 策
9 環境公害の継続的な監視と抑制	①大気・水汚染対策の推進 ②騒音・振動、悪臭被害対策の推進 ③地下水の保全の推進
10 非常時の安心・安全に向けた対策の強化	①非常時の円滑な対応の促進 ②環境公害の発生に対する円滑な対応
11 自発的な環境美化・清掃活動の推進	①環境美化活動の促進 ②ペットの飼育マナーの向上

### ●市民の役割

- ・下水道供用地域での早期接続、その他地域では合併処理浄化槽の施設整備に協力
- ・テレビ・楽器等、音量や使用時間帯に配慮
- ・非常時に備えて避難場所やルートを事前に確認  
非常時には市の指示に従い円滑な対応に努める
- ・自発的な身の回りの美化活動、ポイ捨て・不法投棄の監視への協力
- ・ペットの飼育マナーの遵守

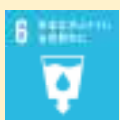


写真 美化活動の様子

### ●事業者の役割

- ・公害防止協定等、各種法律に基づき、悪臭等の発生の抑制。適切な地下水の利用に努める。
- ・「環境美化パートナー事業」の積極的な実施とともに、事業所周辺の生活環境の改善に努める

### 【関連する SDGs】



## 基本目標(5) 1人ひとりが行動し、環境保全に取り組むまち =環境行動=

環境の保全は市民一人ひとりの取組が重要です。ユネスコ世界ジオパーク認定の地である本市は至るところが環境学習の場です。多くの市民が環境保全に参画し、行動するまちを創るため、身近な環境について学び、触れ合う機会を創出します。

### 指標の設定

環境指標	現 状	目 標 (2023 年度)
出前講座の開催数	19 回 (2018 年度)	25 回
ジオパーク検定合格者数 (累計)	1,803 人 (2018 年度)	2,100 人

### ◎市の役割

取組の方針	施 策
12 環境に対する意識啓発と情報提供	①環境啓発イベントの促進 ②環境情報の収集・提供
13 将来の環境の担い手を育成	①環境学習の機会創出 ②学校等における環境教育の充実

### ●市民の役割

- ・市や各種団体が提供する環境に関する情報の収集
- ・自然観察会等への参加に努め、環境意識の向上
- ・環境学習会など糸魚川の環境を学ぶ機会への積極的参加
- ・将来世代への教育を通して、環境の継承に努める



写真 環境学習会の様子

### ●事業者の役割

- ・市や各種団体が提供する環境に関する情報の収集
- ・市や市民とともに環境保全活動への参加に努め、環境意識向上に努める
- ・環境学習や環境教育に係るイベントの開催などに積極的に協力。糸魚川の環境について理解を深めるとともに、将来世代への環境の継承に努める

### 【関連する SDGs】

